

タイトル	神島プロジェクト			
(ふりがな)	(げんさいこうとうせんもんがっこう)	(ふりがな)	(ちーむかみしま)	
団体・学校名 <small>(個人の場合は不要)</small>	減災高等専門学校	チーム名 <small>(個人の場合は不要)</small>	チーム神島	
(ふりがな)	(ぼうさい たろう)	メールアドレス (申請者)		
申請者名	防災 太郎		〇〇〇〇@*****.**.JP	
(ふりがな)	(ねっけつ じろう)	メールアドレス (指導担当者)		
学生の場合 指導担当者名	熱血 次郎		〇〇〇〇@*****.**.JP	
連絡用電話番号 (申請者)	0**-345-6789	指導担当者 電話番号	090-****-****	
連絡先住所	〒 1** - 4567	愛知県〇〇市〇〇1-2-34		

■ 発表者および共同提案者

※発表者は番号右側に○印を付してください。

※共同提案の場合は最大8名とします。

No.	氏名	ふりがな	所属・学部学科等	学生の場合 学年
1	○ 防災 太郎	ぼうさい たろう	土木学部	2年
2	伊勢 三郎	いせ さぶろう	建築学部	2年
3	○ 名古屋 花子	なごや はなこ	建築学部	1年
4				年
5				年
6				年
7				年
8				年

● 留意点

① データはファイル名を『応募：団体・学校名_チーム名.xlsx』として、必ずExcelファイルで送信してください。

例 応募：〇〇高校_△△チーム.xlsx ※ 左記 “_ (アンダーバー)” は半角としてください。

② 当書式のまま文字が欠けないように改行し、また行・列のセル追加、フォント変更などをしないでください。

提案に際しシート1) および2) の他に添付資料等がある場合には「3) 添付資料」シートを追加しても構いません。

追加は上限を2シートとして必ず各シートにおいて印刷設定が「A3用紙横1枚分」となるように提出してください。

③ 表現方法は書面とはなりますが基本的に「自由」です。

文章、手書きスケッチ、デザインソフト使用、写真など、データに貼り付けが可能であればよいです。

模型などの現物提出は禁止としますが、これを撮影した写真データであれば同様に貼り付けてください。

■ 課題

地元地域に根差した防災・減災、SDGsをテーマに得意分野のスキルを最大限に活かしたアイデアとし、アプローチは、DX、システム、IoT、構造物、機器類物質、素材、薬品などを問わず、仮に実現性が低くとも、既知・既存の対策、理論に捉われない提案を望む。

■ 作品要旨

フォント指定：12pt (変更不可)

1) 提案趣旨	近い将来起こるとされている「南海トラフ地震」による巨大津波対抗するために、三重県神島を中核とした巨大な防潮堤を建設することで、被害を無効化する。
2) 提案背景	伊勢湾は日本の中部に位置する巨大な湾岸であり、湾岸部の長さが約700kmにも及ぶ巨大な経済圏でもある。個々に津波避難ビルや高台移転を行うには湾岸の距離の長さが仇となり、時間と予算がかかり現実的ではない。
3) 具体的対策	伊勢湾入り口となる沿岸ラインには神島を中心として海底島が点在するが、ここはわずか15km程度であり、これを利用して大型吊り橋や防潮堤を設けることで、津波被害の無害化が可能となる。
4) 期待できる効果	この防潮堤化により伊勢湾全体を巨大海水湖とし、浅瀬という伊勢湾の地形特性を活かして、新たな浅瀬海洋漁業の展開への期待と、さらに伊勢湾内部にある中部国際空港への被害軽減化が図れる。ここに津波被害に強い物資供給拠点が構築されることとなり、通常時においても経済拠点となる。
5) 今後の課題	伊勢湾周辺は工業地帯が点在し、多くの工業用水が河川排出され湾内への流入があるため、海水汚染の問題もあり、海水湖化においては当然この対策も必須課題である。

④ 上記「作品要旨」における番号、項目は仮に設定していますが、移動、削除は適宜行ってください。

項目立ては限定しませんので、適宜、番号を付して記入してください。

ただし、行の追加は不可としますので、表記文が当用紙に納まるようにまとめてください。

項目例) 背景、現状、課題、目的、意義、方法・手法、考察、結果、結論、まとめ、今後の展開・展望、参考文献 他

※ 参考文献からの図表、写真などの引用資料については出典元を必ず明記してください。

⑤ 審査方法

当「減災サステナブル技術協会」に属する審査委員で構成する審査委員会にて審査・評価します。

審査委員の数名に加え、特別審査委員として国内大学教授ら複数名により審査し、総合評価をします。

【作品提案】

神島プロジェクトとは？

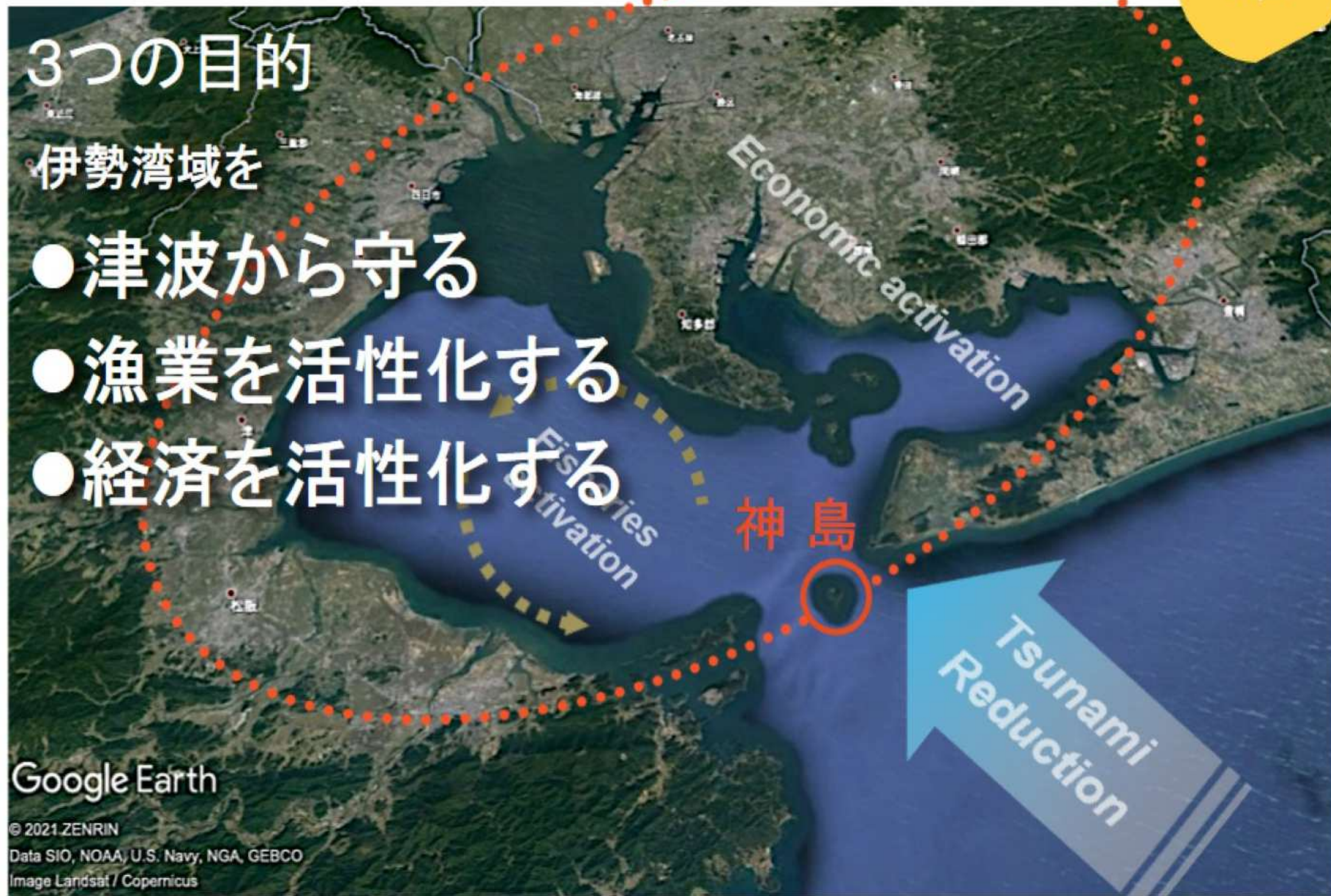
3つの目的

伊勢湾域を

- 津波から守る
- 漁業を活性化
- 経済を活性化

Google Earth

© 2021 ZENRIN
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Image Landsat / Copernicus



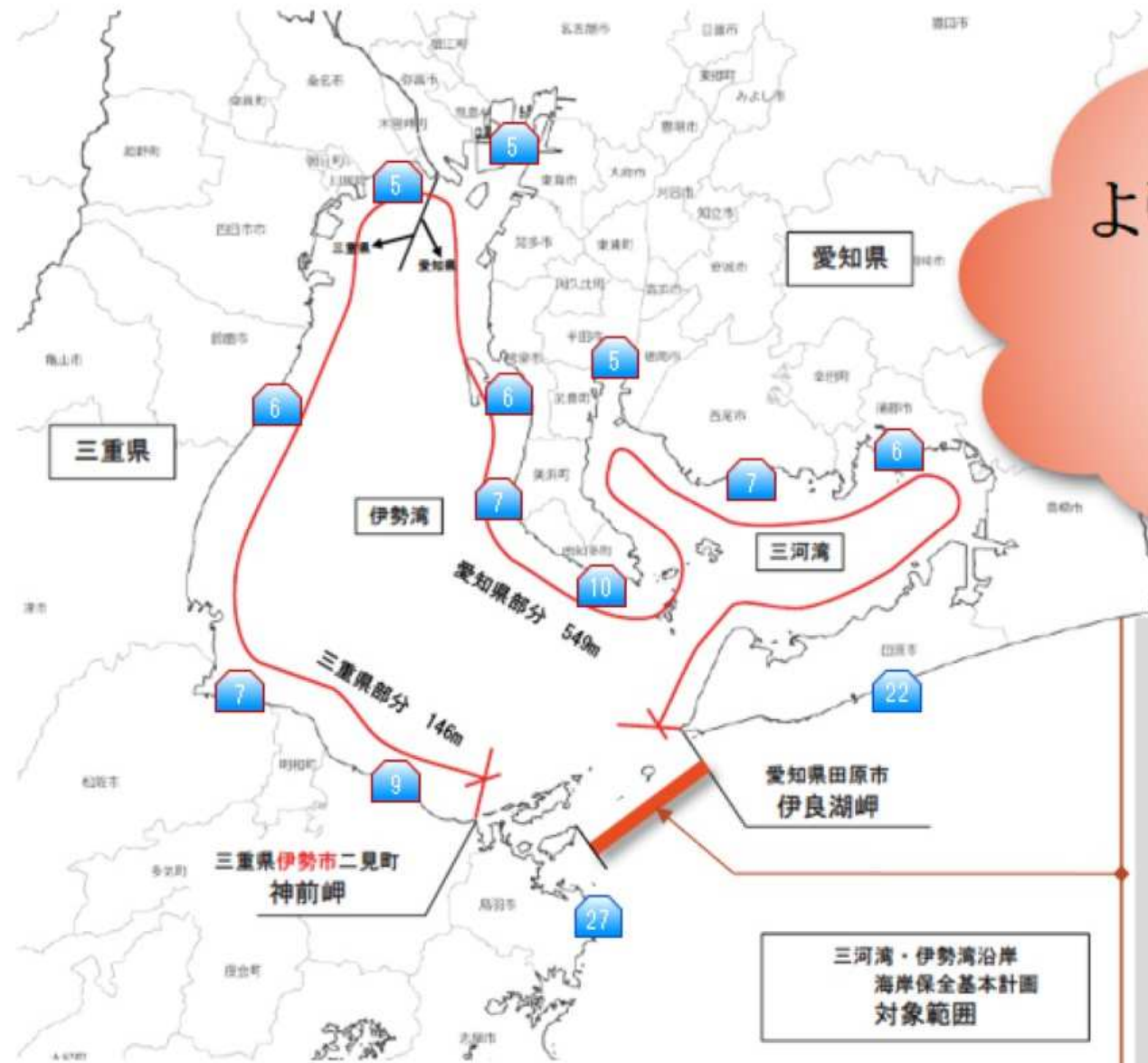
【添付資料】 ①

津波威勢のフロントライン

“神島”だからこそその有効性



より理想的かつ合理的な
湾口防衛ライン



【実装距離】
伊勢湾～三河湾の海岸線
延長 約700km

菅島～伊良湖岬間
直線距離 約15km

最大津波高(湾内)
 最大津波高(湾外)

南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)/市区町村別ケース別最大津波高(満潮位・地殻変動考慮)H25より

【添付資料】 ②

津波威勢のフロントライン

伊勢湾口に 多重の津波減勢ライン

を建設して堤防機能を持たせ、さらに多目的インフラとして活用する。



海底地形を利用して第1減勢ラインを形成する。

橋脚や建築物、または既存海底山などを利用し「第2減勢ラインを構築する。」

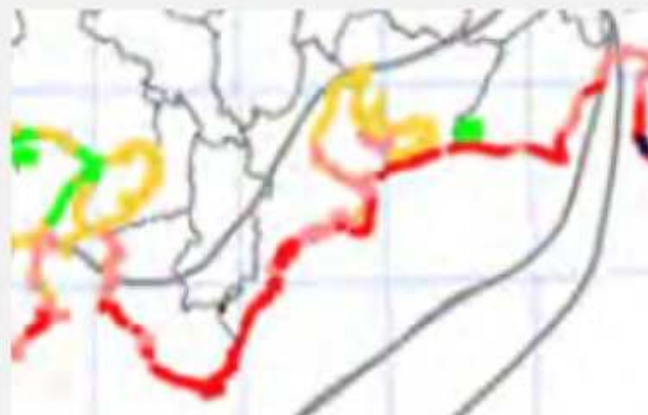
【添付資料】 ③

神島プロジェクト 3つの目的


 Kamishima
Project

津波威勢の フロントライン

1. 愛知・三重の両県共同により、伊勢湾の減災を図る。
2. 南海トラフ巨大地震による津波の湾内浸入のための多重減勢ラインを構築する。
3. 多重威勢対策のフロントラインの有効運用により湾内の環境保全と両立させる。



畜養漁業を 促進し活性化

1. フロントラインにより静水化される湾内を活かし大規模な畜養漁業を促進する。
2. 新大規模水産卸売市場の創設により国内2大市場への供給および海外輸出を実現する。
3. 積極的水質改善に取り組む。



出典: Kindai Picks (近畿大学)

湾域経済の 活性化

1. 連絡橋となるフロントラインを観光資源化する。
2. フロントライン施設内に「海上未来都市」を整備し雇用促進に貢献する。
3. 海洋深層水を活用した第一次産業工場などの整備を図る。

